

行/事/予/定

9月~11月

- 9月16日(祝・月) 大歳地区敬老祝賀会【大歳小学校】
- 9月17日(火) 地域づくり計画策定委員会【大歳地域交流センター】
- 9月21日(土) 大歳小学校 運動会【大歳小学校】
- 9月21日(土)~30日(月) 秋の全国交通安全運動
- 9月25日(水) 高齢ドライバー1日ドック【山口県交通安全学習館】
- 9月29日(日) 第36回大歳地区バドミントン大会【大歳小学校】
- 10月 7日(月) 地域づくり計画策定委員会【大歳地域交流センター】
- 10月15日(火) 地域づくり計画策定委員会【大歳地域交流センター】
- 10月20日(日) 大歳地区一斉清掃【各自治会内】
- 10月26日(土) 鴻南中学校 文化祭【鴻南中学校】
- 10月27日(日) 山口市長選挙 投票日
- 11月 1日(金) 大歳小学校 校内音楽会【大歳小学校】
- 11月 3日(祝・日) 第37回大歳まつり【大歳小学校】
- 11月 9日(土)~15日(金) 高齢者交通事故防止県民運動
- 11月13日(水) 高齢ドライバー1日ドック【山口県交通安全学習館】
- 11月24日(日) 第14回大歳地区ソフトバレーボール大会【大歳小学校】



おとしかわの歳

Information

大歳地区花壇コンクールの審査が行われました

8月9日(金)に、花壇審査が行われました。今年7月28日の豪雨、それ以降の猛暑日の連続ときびしい天候でしたが、立派な出来栄の花壇も多く見受けられました。審査の結果は次の通りです。なお、11月3日の大歳まつりで表彰式があります。

- **優秀賞**
上矢原子ども会、矢原住宅自治会、下湯田子ども会
- **優良賞**
坂東自治会、朝田福寿会、上湯田上自治会子ども会、勝井自治会
- **努力賞**
矢原第2住宅子ども会、中矢原子ども会、岩富子ども会、下矢原子ども会



大歳地区一斉清掃のお知らせ

大歳自治振興会では、環境整備や地域のふれあい促進を目的として、各自治会の生活道路や公園などを子どもから高齢者までが一緒になって掃除を行う「大歳地区一斉清掃」を10月20日(日)に実施します。

今年で5回目となる「大歳地区一斉清掃」に地域の皆様のご協力をお願いします。

「防犯功労賞」受賞おめでとう!

今年6月、山口地区防犯対策協議会長より大歳自治振興会の安心安全部会が、防犯功労の表彰を受けました。

表彰理由は、地域住民の安全を目的として、わんわんパトロールをするなど地域ぐるみで、登下校時の子ども見守り活動や、高齢者への振り込め詐欺被害防止を積極的に取り組んでおり、地域の安全活動に多大な貢献をしているからです。



編集後記

7月28日の豪雨で、大変な被害を受けた山口市阿東嘉年地区に、災害ボランティアとして参加しました。裏山の土砂崩れで、家の倒壊がいたるところで見られ、被害の重大さをひしひしと感じました。盆明けにはボランティアの数が激減したと聞き、また何か出来ることはないかと思案している今日この頃です。(内田)

まちづくりおとし かわら版 2013.9 Vol.23

7月28日の豪雨災害について 災害特集

突然の大雨

7月28日の豪雨で被害を受けられた皆様へ心よりお見舞い申し上げます。

あれから4年、早朝からの雷と道路を打つ激しい雨音に、不気味さを感じ外を見ると表現のしようのない雨、これは大変なことになると思い、パソコンで雨雲レーダーを見ると、真っ赤な色で、大歳地区上空で停滞した雨雲が見えている。繰り返しにならないようにと思いつつ、小降りになるのを待っていたら、次々と入ってくる防災メールの数に、ただならぬ気配を感じました。とりあえず雨が小康状態となるまで待ち、外に出ると榎野川は増水し、川一面となって流れており、大歳地区のあちこちで、道路が冠水していました。



猛暑の中倒壊した家のかたづけをする災害ボランティア

砂の搬出など皆様のご協力により3日間でおおむね片付きました。家族の皆さんのお礼に参加者一同ホッとしたものです。

また、参加された方々も暑い中大変でしたが、参加してよかったと言っていました。今回だけの支援では、まだまだ足りないことも分かり、何かあったらという温かい言葉で帰宅されました。

災害の現状を見る事で、防災意識の高揚にもなり、知らない人同士がまとまった感もあり、これで大歳地区もさらに強固につながったように思いました。けが人もなく、すばらしいボランティアであったと思います。参加者で高齢(73歳)の方は、「自然の脅威を見せつけられた災害、いつどこで起こるかかわからない。暑くてきつかったがお手伝い出来てよかった。」と笑顔で話していました。

(参加された人数は、女性15人、男性30人でした。)



東薬パン前から養元寺方面の市道(上湯田下)

大歳地区災害ボランティア

7月28日の豪雨災害時に被災された阿東地区の皆さんに何かできればと大歳自治振興会が災害ボランティアを募集したところ、たくさんの方(のべ46名)に参加いただき8月16日から18日の3日間、現地に行きました。場所は、阿東地区でも一番被害のひどい嘉年吉部野上で、周囲は数か所の土砂崩れ、田んぼには土砂や流木などが流入、家屋は土石流により半壊していた状態であり、水路の土砂上げや、壊れた家屋の片付け、屋内の土



水害で倒壊した消防回詰所



田の中に放置されたままの車

東北被災地交流支援事業の速報

東日本大震災に学ぶ 視察を終えて(8月23~25日)

千年に一度といわれた東日本大震災から2年半が経ちました。

まちが津波で壊滅的な被害を受けたにもかかわらず復興に向けて着実に前進している石巻の人々、同じく被災しても放射線量の影響から居住制限をされたことにより、遅々として復興の進んでいない南相馬・浪江の人々、当たり前とっていた日

常の暮らしを取り戻すために除染活動など様々な努力をされている福島市の人々、被災された多くの方から直接話を聞くことができました。被災地の皆さんは「震災が風化して忘れられてしまう」ことを危惧されていました。

私たちも被災地の支援にあわせ、自分自身の防災意識の向上が必要だと感じました。



東北被災地交流支援事業 視察 行程



ドーム型大型遊具(びよんびよんドーム)について説明を受ける

初日

8月23日(金)

大歳自治振興会子ども部会(部会長馬越帝介)の募集に応じた大歳小学校5・6年生6名と参加した大人5名、総勢11名は、早朝より新山口駅に集合し結団式の後、新幹線を乗り継ぎ、午後2時過ぎに福島市に到着。市役所の皆さんの大歓迎を受け、子ども達も一瞬びっくりしていたが、その後は落ち着いてびよんびよんドームなどの施設見学や除染作業の説明を受けることができたようであった。早朝からの緊張と長旅で夕食後は早々に床に就いた。



福島市役所にて除染活動についての説明を受ける



福島市役所での歓迎セレモニーの様子

第2日

8月24日(土)

2日目は、チャーターしたバスで震災のつめあとを見るために、一路南相馬市へ。途中飯館村の人のいない集落やまちに、違和感も受けた。到着後さらにまちに入る許可を取り、浪江町の視察に向かった。海岸近くは何とも言えない感じで、多くの住宅があったはずのところでは家の基礎だけ残して何も残っておらず、津波によってもたらされた瓦礫と宅地の後に伸びた雑草が生い茂り、まるで原野であった。



南相馬市役所前にて被災状況について説明を受ける



事故を起こした福島第一原子力発電所の4本の煙突

ここに人々の生活があったなどとは、思いもよらないような現状であるとともに、津波で流された人が呼んでいるような気もしたの、私だけではないと思う。子ども達も呆然とバスの中から見ていた。遠くに福島原発の4本の煙突が見え、災害に起因する事故の後遺症を目の当たりにした。

午後は、さらに2時間以上かけて宮城県石巻市へ移動、いきなり津波の高さを示すビルの2階に設置された津波高さ表示板に、身の毛もよだつような思いだった。その後、市内を車窓から視察し、門脇小学校跡地に到着。一瞬にして500人以上(500メートル四方)の人の命が失われ1800棟も流され、追い打ちをかけるように火災が発生し、小学校の建物も燃え尽きた。校舎の壁面は焼け焦げ、見るも無残でつい2か月前に周囲をシートで囲ったそうである。

その後も市内を車窓から眺めるが空き地に雑草が茂り、見るも無残な姿は、浪江と一緒にあった。自然の脅威と人間の力関係をまざまざと見せつけられた気がした。そして、仙台で宿泊。



倒壊した家屋をはじめ、まち全体が震災発生日のまま放置されている



活気があった漁業のまちは、手付かずの雑草で荒野と化し、時間だけが過ぎていた



まちが津波に飲み込まれ更地となった石巻市



門脇小学校前のお地蔵様には、全国各地から来訪者が手を合わせる

第3日

8月25日(日)

3日目は一路山口へと向かった。新山口駅での解団式では、子ども達は一樣に「勉強になった。」「このことは友達や家族に伝えないと」と旅の疲れも見せずに素晴らしいコメントを残してくれて、同行した大人も十分な成果があったと確信した。馬越団長も「聞くことよりも、見ることの大事さ、そのことにより、さらにこれから東北への気持ちや、今回災害にあわれた地元の人々へも、温かい眼差しが向けられること、未来を担う子ども達が今回の趣旨を理解し望んでくれたことへの感謝と今後の継続事業となることを切に望みます」と、さらに、人を思う素晴らしい大歳の人づくりになるものと思う。参加された皆さんご苦労様でした。

なお、10月中旬以降に大歳地区の皆さんへ感じたことを伝える報告会などを開催する予定なので、ぜひ、ご参加いただきたいものである。

大歳にコミバスがあったら? 住みよい大歳を考えましょう



移動市長室などで必ず出される要望に、「コミュニティバスをJR大歳駅まで延ばしてほしい」があります。

大歳地域の主要交通網は、国道9号も、県道大歳宮野線もJR山口線もすべて東西に延びており、湯田や山口の中心街などへ出かけなければ生活圏が完結しないという構造を持っており、住民は自家用車に頼る生活を余儀なくされています。大歳の公共交通を考えることは大歳のまちづくりを考える契機になるのではないのでしょうか。

るなどの理由で市の姿勢は現在のところ消極的で、かつ、地域主体で運営するコミュニティタクシーの運行を提案しています。

大歳自治振興会では地域づくり計画(5年計画)で、延長要求とともに、「将来を考え、大歳ルートを新設設計し、継続的に市へ要望する」ことを目標としています。大歳は公的施設、商店、医療機関などが旧道沿いにわりと集まっており、大歳の中心街に発展してほしいとの願いがあります。一方で旧道は自動車の増加で極めて危険な子どもの通学路となっており、子どもの安全のために交通規制ができないかということが課題になっています。この両者の問題解決の最良の手段がコミバスであろうことは容易に想像できます。

まちづくりの武器に

大内ルートの新設で、「お医者さん通りができた」と言われます。バス停の間の距離が短いコミバスが通ることで、既存の医院の近くに次々新しい医院ができたのです。お年寄りの様々な病気に対応した医院が林立すれば、重病でない限り、大内地区内で医療問題の大半が解決できることとなります。これは、人口が増えれば、やがて様々な施設も整うだろうと考える市場任せの取り組みでなく、主体的なまちづくり計画を地域に密着した移動手段を考えることで進めていくことを可能とします。住民の生活を支え、地域の活性化や地域づくりに資する交通環境を一緒に考えていきましょう。

コミバスの利点

コミバスは山口市が運行する住民福祉のためのバスで、旧山口市では①五重の塔から若宮病院までまでの大内ルートと②山口駅から湯田・吉敷(大歳の一部)を回って山口駅に帰る湯田・吉敷ルートの二つがあります。料金は中学生以上200円(高齢者割引などあり)で、主として防長バスなどの路線が無い地域をこまめに止まりながら、一時間程度で目的地に着くように設定されています。また低床バスが多く、足の悪いお年寄りでも乗り降りが容易にできるよう工夫されています。

時	分
7	※36
8	51
10	06
11	06
12	06
13	06
14	06
15	06
16	06
17	06
18	19
19	26

H22.4.1改正 12分 ※

1時間に1本の時刻表

コミバスは大歳を通るのか

湯田・吉敷ルートを一部変更して大歳小学校前の旧道を大歳駅あたりまで延ばしてほしいとの要望には一時間程度というバスの運行時間が大幅に伸び



グラウンドゴルフは元気の秘訣



朝田自治会にお住まいの大隅禮次郎さんは、昭和2年生まれの85歳。はつらつクラブでグラウンドゴルフを始められて10年になるという元気な方です。毎週日曜日早朝8時半から、大歳小学校のグラウンドで、15人ほどのメンバーと颯爽と練習されています。9月1日の山口市民体育大会に、仲間6人(75~85歳)と共に、出場する予定でしたが、残念ながら雨天中止となってしまいました。

また、大歳地域交流センターで、大人の居場所という活動も企画され、三世代交流や、小学校との交流など活発に参加されています。お話を伺ったこちらの方が大変刺激を受け、逆に大いに元気をいただきました。



「ホースを！」のお願いに快く応えていただいた大隅さん

大歳 歴史の散歩道

和田から街道は三作の田んぼの真ん中を突っ切ります。三作は洪水の常襲地帯で、家は洪水につからないよう石垣の上に建てられていることで有名です。昔は多くの場合、道は美田をつぶすことを嫌って川沿い、山沿いに造られていましたから、この田んぼの真ん中の道は三作の景観が大きく変化したことを想像させます。

三作は箕作からついた地名で、川の氾濫原に竹やかすが生い茂り、これを加工する人たちが住んでいたのではと考えられています。山口に近づくにつれ、街道が条里制の区割りに従って続くと対称的な景観が広がっていたのでしょう。



三作の街道風景(農道)



おじゃまします!!

【おとし交流列車実行委員会】

- 大歳駅開設100周年記念行事の総括
 - ・皆さんにたくさん来ていただき、久しぶりの賑わいがあった。
 - ・これからも年に数回このような企画をしていけたら
- 皆さんに聞きました
 - ・大歳駅舎内にベンチはあるが、プラットホームにないので、乗客が跨線橋の階段に座っている。
 - ・駅構内や周辺の植木の剪定は誰がしているのか
 - ⇒ボランティア(駅を守る会)がしているが、高齢化している
 - ・駅を利用する学生を生かすことをやったらどうか
 - ⇒サインがない、駅近くにコンビニ等がない
 - ・陸上競技場を利用する人に駅を使ってもらおう
 - ⇒サインがない、駅近くにコンビニ等がない
 - ・地元のリサーチを行ったらどうか
 - ・地域を挙げて取り組む方法はないのか
 - ・若い人が集まるイベントはできないか
 - ・若い人を集めて ⇒ 駅周辺の美観を考える清掃をする
- 自治会や住民もたずさわる
 - ・100周年で、駅のPRはできた ⇒ 継続してイベントを企画する
 - ・駅周辺の清掃：駐車場も含めて計画(定期的)に行こう
 - ・便所の使い方等の掲示やお願いをする
 - ・石州街道を歩くなどのイベントを企画してほしい。
 - ・まず、大歳駅から小郡側地域の活性化を考える

石州街道 vol.3



石垣の上に建てられた家

事実、水田化された後の明治時代に街道幅が論議された時、美田をつぶすことに強い反対がおき、榎野川堤防が拡張され、その盛土とするため、二間の大道であった石州街道は三作一仁保津間でほぼ半分の幅に切り縮められ農道と化して現在に至っています。

もっとも雨が降るたびに、道が水没して通れなくなる難点がありますが、小郡から石見の国境までの石州街道で難所と言われたのは、急坂の続く杖坂と洪水のたびに橋の流される渡川とで、道の水没などさしたる問題ともならない(回り道で克服できる)平穏な街路だったのでしょう。